

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年6月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690102290
法人名	株式会社 亀藤
事業所名	グループホーム 楽
所在地	鹿児島県鹿児島市中山町1207番地1 (電話) 099-203-0577
自己評価作成日	令和6年5月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅での生活に近い形で、日常生活が送れるように支援している。認知機能の低下した利用者様にも優しく声かけし、戸惑いや不安を出来るだけ取り除き安心して暮らせるように寄り添っている。また、他の利用者様ともお互い助け合いながら過ごせるように、職員を交えて交流の機会を作っている。24時間医療連携の体制を整えており、月2回の訪問診療・週1回の訪問看護がある。その他にも個々に合わせて、訪問歯科や専門医の訪問診療・訪問マッサージも受けられるようにしている。それぞれにあった支援を基本にできる力を大切にし、自信をもって生活を送れるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体医療機関に隣接して建てられていることから、緊急時を含めた24時間医療連携体制が整っている。月2回の訪問診療及び週1回の訪問看護が行われ、家族の意向に沿って看取り介護にも取り組んでおり、家族は日常の医療・健康管理及び終末期対応への安心につながっている。
- ・コロナ禍のため令和5年度まで制限されていた家族との居室面会・外食・外出が令和6年度は再開し、本人及び家族の要望に沿った交流が行われている。
- ・管理者及び職員は、利用者の平均介護度が1.8であることから、利用者の希望の表出や自己決定を働きかけ、利用者の希望や持てる力に合わせた支援に努めている。
- ・管理者は、所内勉強会による知識の向上を図ったり、休憩時間の確保や有給取得の配慮など、働きつづけられる職場環境づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を見える所に掲示しミーティング時など唱和している。理念に添った支援を意識して、実践に活かせるように努めている。	理念をパンフレットに記載し、事務所および廊下・畳スペースに掲示し、ミーティング時に唱和している。管理者から理念に沿ったケアの実践を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍だったので、地域の方々との接触は控えている。町内会は母体で入っている。	地域情報は自治会に加入している法人から得ているが、感染予防のため行事への参加は見合わせている。6年度は住民も参加する法人の夏祭りへの参加を検討中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症に関しての資料配布をご家族、地域の方々へ配り、理解や支援内容を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をご家族、地域の方々へ配布し、当施設の状況や内容を知っていただき、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は書面で開催し、事業所状況などの資料を委員に郵送して、委員から意見等を聞いている。時々民生委員の来訪があり地域情報を把握する機会となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	現在の入所申込み状況や待機状況を報告している。市のホームページをチェックしたり、相談したりして助言や意見をいただいている。	市の担当者とは、電話での相談や申請・報告に出向いて状況を伝えるなどで連携を取っており、介護相談員の受け入れを予定している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングや申送り、勉強会などで、身体拘束についての知識を深めている。日中は玄関の施錠はせずに見守りしながら、自由に生活できるように努めている。	指針があり、委員会を3ヶ月に1回、研修会は年2回実施している。スピーチロックに気づいた時は管理者から注意を促し、勉強会で取り上げることもある。玄関の施錠はせず、外に出たい利用者には敷地内や広い駐車場を一緒に散歩するなどの対応で、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止策の策定に基づいて、ミーティングや勉強会などで、管理者、職員相互の支援を確認しながら、虐待はないか注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	認知症症状による判断能力が低下している入居者の方々の支援援助を、ご家族を交えて対応している。成年後見制度について活用につなげられるよう勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に事業所の理念や取り組みについて説明を行っている。契約内容や医療連携体制についても説明を行い、納得、理解、協力、同意を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話対応時に現状報告し、意見や要望を聞いている。毎月の楽だよりに写真や職員からのコメントをのせ、生活状況を報告している。	本人には日常会話の中で思いを聞き、イベントで好物を出したり、家族に要望を伝えている。家族には電話や面会時に要望を聞いて対応に努めており、家族の要望で外出や外食に出かける利用者もある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングや毎朝の申し送り時に職員の意見や提案を聞いている。申し送りノートや議事録などを活用して、柔軟かつ速やかに実行に移している。	朝の申し送りやミーティング時に職員の意見を聞き、ミーティングで検討して反映できるよう努めており、申し送りノートや議事録を活用して職員間の情報共有を図っている。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員から出た要望や意見は速やかに代表者へ報告を行い、現状を理解してもらっている。また直接職員の声を聞いてもらい、向上心をもって働けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加が難しい中、ストーマ装具着用の入居者を対象に全職員を数週間かけて研修を行った。また無資格者に対して、オンラインのeーランニング研修を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームや介護施設と情報交換を行い、当施設で活用できるものは取り入れて質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人から話を聞き、今までの暮らしやこれからの希望要望、不安な事を話してもらっている。日々の生活やレクリエーションを通して、本人が安心して暮らせるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族の方の思いや要望、困っている事や不安な事などを聞き、家族の方の気持ちや思いに添えるよう、説明し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや要望を聞いた上で、必要な支援に対しては母体病院と連携をとりながら訪問マッサージ等を利用できるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者が同じ目線に立ち話を傾聴したり共感したりしながら、より良い暮らしが出来るよう信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族来所時や電話対応時に日々の状況や体調を報告している。家族が状況や体調を把握し、安心して本人との関わりを大切にしていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は入居者本人の居室で行い、プライバシーを保ちながら、話ができるように努めている。外出や外食など家族の協力を得ながら出来るだけ希望に添えるよう支援している。	家族との居室面会や電話・携帯での交流を支援している。本人の希望を伝え馴染みの店での外食や買い物に家族が同行するなど、これまでの関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が協力して行えるレクリエーションや共同作業を通して入居者間の連携やコミュニケーションが図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも声かけや相談いただける場であることを心掛けており、退所されても連絡していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お茶の時間や入浴時、食後などに思いや意向の把握に努めている。職員間の情報共有で日々の支援に活かしている。	全員自分で思いを表出できるため、日常会話の中で本人の思いを把握し、家族の協力を得て意向を反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の入居者との会話やレクリエーション、回想法を通して、今までの生活歴を把握しケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの残存機能を生かしながら個々にあわせた生活ベースで過ごしていただくよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや要望を聞き、自立支援に取り組んでいる。職員、主治医と話し介護記録を基に介護計画を作成している。モニタリングは月一回、見直しは3～6ヶ月毎、また状況に応じて実施している。	本人や家族の希望を聞き、日常業務の中で出された職員の意見を入れて介護計画を作成している。毎月1回モニタリングを実施し、3～6ヶ月毎に見直している。状況変化時にも見直し、現状に即した計画にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動や行動、様子や身体状況などを介護記録に残したり職員間で情報共有に努めている。状況に応じてケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問美容など、定期的に来てもらっている。緊急時や家族の都合がつかない場合は、職員同行での受診を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージや母体病院のリハビリなどを受け、可動域を広げる運動や体操を教わり、身体を動かすことを楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人と家族にかかりつけ医の希望を確認している。月2回の訪問診療や週1回の訪問看護があり、24時間医療連携体制をとっている。他科受診は家族が同行しているが、困難時は職員が同行し家族へ結果を報告している。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、全員母体医療機関の訪問診療を受けており、訪問看護や24時間医療連携体制が整っている。他科受診は家族対応が基本であり、職員同行の場合は結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受けている。日々の観察の中で気になることは看護師へ相談や報告、助言を頂き、必要な時には適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な時には、速やかに情報を提供できる体制を整えている。病院関係者との情報交換や関係作りにも気を配っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についてや看取り介護について説明しているマニュアルもあり、入居時に説明し同意書を得られている。病状変化時は、主治医を交えて再度話し合いをしている。	契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書を得られている。重度化の場合、医師から家族に病状説明し意向を確認し、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。意向に沿って看取り介護にも対応し、看取り介護の事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は速やかに情報共有を行い、マニュアルや報告書を基に今後の対策に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中や夜間を想定した避難訓練を実施している。一回は消防隊立ち合いのもと、一回は自主訓練をしている。備蓄は水、缶詰、レトルト食品、ラーメン、うどん、米などを三日分準備している。避難場所は施設の駐車場や近隣の小学校となっている。	年2回昼夜想定で避難訓練を実施し、1回、消防署の立ち合いを受けている。今後、運営推進会議委員に協力を働きかける予定である。非常用の備蓄は、3日分の水・缶詰・レトルト食品・乾めんなどの食料及びカセットコンロを準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を重視し、その方に合わせた声かけを行っている。トイレ案内時や使用時はプライバシーが守れるように配慮している。	それぞれに応じた声かけを行って、さん付けで呼びかけている。希望で同性介助に対応したり、排泄介助時の声かけや職員間の排泄に関する情報交換を人前ではしないなど、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や意思を聞き、可能な限り自己決定していただくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や要望、ペースに合わせ、どのように過ごしたいかの希望に出来るだけ沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日の更衣などで本人の希望に沿った服を揃えたり、訪問美容にて整髪や染髪が出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合わせ、刻み食やミキサー食へ形状を変更している。お盆拭きや机拭きなどを職員と一緒にやっている。	チルド等の調理済み食品を個々に応じた食事形態に加工して提供している。利用者も一緒にテーブル拭きをしている。ホットプレートでの昼食やおやつ、誕生日のケーキ、仕出しの寿司・ハンバーガーも提供し楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェック表で管理している。水分量が少ない方は、ストロー付きコップで常時飲めるように提供したり、食事量は主治医に報告し、指示や助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアの声かけ、見守り、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、周りに気づかれないように配慮した声掛けで対応に努めている。本人の出来る力を大切にし、出来ない所の支援を行っている。	個々の排泄パターンに応じた声かけを行ない、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。個々に適した排泄用品を検討している。身体状況等に応じて、夜間のみポータブルトイレやオムツを使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品の提供、歩行や体操などで体を動かすよう声かけ、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回が基本だが、希望や体調に合わせて柔軟に日数や時間を変更している。入浴拒否がある場合も職員を変更するなど、柔軟に対応している。	週2回午前中に入浴を支援し、希望や体調で柔軟に対応している。汚染時も陰洗やシャワー浴で対応し、保清に努めている。嫌がる場合も時間や人を変えて声かけし支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や生活リズムを把握し、一人ひとりの状況に応じて支援している。昼寝や休息が行えるように時間も確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を共有把握し、変更時には主治医や薬局に確認して、職員間で理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に掃除や洗濯物干し、たたみの家事を行ったり、習字や折り紙、キャップパズル、ぬり絵等のレクリエーションを楽しんだり毎日張り合いが持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出の機会がなかなか難しかったので、敷地内の散歩や菜園で土いじりができるようにしている。家族へ本人の希望を伝え、協力をお願いしたりしている。	コロナなどの感染予防のため外出を控えており、天候の良い日は全員外に出て敷地内の散歩をしている。家族と外食などで外出する利用者もある。今年度は年間計画を立てており、6月に近隣のファミリーレストランの外食を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いを預かり、出納帳で管理している。本人の欲しいものやご家族が要望するものを本人の代わりに購入している。本人、ご家族の希望で少額のお金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が希望するときは、自ら電話を掛けられるようにしている。手紙を書くことが出来ない人も、ぬり絵や折り紙を送ったり、代筆ポスト投函を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は掃除や片付けを毎日行い、環境整備に努めている。また入居者の作品やぬり絵、折り紙などを飾っている。窓が大きいので採光はブラインドで調整している。和室やソファなど、好きな場所でくつろげるようにしている。	リビングは空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に調節し、日光はロールカーテンで調整している。掃き出し窓を開けて換気も行っている。季節の飾りつけで季節を感じてもらえるように工夫し、利用者には畳スペースやソファの好きな場所でくつろいでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には和室やソファがあり、好きな場所でゆっくり過ごしたり、気の合う入居者同士でテーブルを囲んで談笑したりと居心地の良い共有スペースになるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や馴染みの物などを持ってきている。仏壇やテレビ、家族の写真やぬいぐるみなどを置き、居心地よく過ごせるようにしている。	居室にはベッドやタンス・洗面台・エアコンが備えてあり、寝具はリースである。使い慣れたテレビや小タンス・仏壇・ラジオ・ラジカセなどを持ち込んだり、週刊誌や個人購読の新聞・写真・化粧品などの身の回りの品で自宅と同じように過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などに案内表示があり場所を分かりやすくしている。廊下やトイレには手摺りがあり、安全に歩いたり立ち上がったりできるようにし、出来る力を奪わず、自信に繋がるように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない